事務局便り

第１０６号（令和５年１２月）

【英霊に敬意を！日本に誇りを！】

近畿偕行会

巻頭言

１０月、１１月は２大慰霊行事を実施しました。武漢ウィールス禍の以前に戻り盛大に実施できたものと思料します。

また各地にて慰霊行事が行われ、可能なものには会員代表が参加させて頂きました。

さて、年齢と共に時の経つのがことの他速く感じられ、今年も早や師走を迎え、会員各位におかれましては、そろそろ新春を迎える準備を始められる頃かと拝察いたします。

ロシアのウクライナ侵攻、加えてイスラエルとハマスの紛争、また中共の狂気による脅威等国難下ではありますが、来る令和６年が皆様にとり、明るい良き年になりますようご祈念申し上げます。

（加賀本）

案内事項

令和６年１月理事会案内

令和５年度第３回理事会は、１月２５日（木）１６：００～１７：００で開催を予定しております。理事の方には、別途ご案内致します。

万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようご案内申し上げます。

また、その後１８：００からは歴史研究会を実施します。

なお、出欠のご連絡は、１月１９日（金）までにご連絡ください。　担当　熊谷

Tel.：078-952-3063　携帯：090-3844-3296

Mail：dfquk007@kcc.zaq.ne.jp

１２月度・令和６年１月度歴史研究会

１２月・令和６年１月度は、以下で予定しております。何方でも参加できます。また、ライフワーク等の研究発表の場としても大いにご活用下さい。

場所は、神戸大学凌霜クラブ(06-6345-1150)

大阪駅前第１ビル 11 階南側です。

多くの方のご参加をお待ちしております。参加を希望される方は、食事準備の都合もありますので、４日前までに加賀本までご連絡ください。

必要費用は、軽食会食費代で３０００円程度（１２月度は忘年会で６０００円）です。

申し訳ありませんが、直前３日以内のキャンセルについては、軽食費用を申し受けます。

【なお、歴史研究会は、２月以降は不定期実施とさせて頂きます。発表を希望される方がありましたら随時実施します。お知らせ下さい】

担当　加賀本

TEL：072-785-8954　携帯 090-1241-8877

Mail：akio@room.ocn.ne.jp

１２月度

日時：１２月２１日(木)１８時～２０時

内容：『中国を封じ込めよ』です。

田川顧問に担当して頂きます。

ロシアの失敗に学んだ中国は、日本有事でどう動くか。元陸自トップが明かす。安倍防衛戦略著者は元陸上幕僚長　岩田清文氏です。

『日本は今、米中新冷戦の最前線戦に立たされ、戦後最も厳しい安全保障環境に置かれている。習近平主席が、プーチン大統領と同じ過ちを犯さない保証は誰もできなくなっている中、日本有事を意味する台湾有事の危険性が日々高まっている。日本が太平の眠りから覚め、どうすれば戦争を抑止できるのかについて真剣に考え、行動を起こさなければ、私たちの子孫に対しての責任をとれなくなるほどの厳しい状況に直面している。

だが、中台紛争が生起した際、「日本が巻き込まれる」　という論調が主体であり、「日本が戦争の当事者になる」という認識はまだ充分ではないように思える。このため、日本が当事者として、中

台紛争に備えなければならないという状況、まさに安倍元総理も言及されていた、「台湾有事は日本有事、日米有事」となる状況について説明したい。』（「はしがき」より）

令和６年１月度

日時：１月２５日(木)　１７時～１９時

内容：『中国経済崩壊宣言』です。

田川顧問に担当して頂きます。

著者・対談は高橋洋一氏と石平氏です。

『中国経済について高橋洋一先生と対談を本にするのは今回で４回目だが、本書はその集大成を示すものになった。２０２３年の夏を迎え、いよいよ私たちはこの最新刊の対談本をもって高らかに「中国経済崩壊宣言」を掲げるからだ。

現在の中国経済は、輸出もダメ投資もダメ、失業者があふれて消費が消失している最中であり、まさに絶体絶命的な状態に追い込まれ、崩壊の真っ只中にいるのである。皆様にはぜひ、本書の通読により「中国経済崩壊」の生々しい実態を確認していただきたい。』（「まえがき」：石平より）

『人民解放軍が台湾進攻する場合には、日本の先島も巻き込まれるので、自衛隊とのあいだで戦闘状態になる。この場合、日本は米国と日米安保条約を結んでいるので米軍が直ちに助けに来てくれるかというと、それは期待できない。米国は直接関係のない戦闘に米国の若者を駆り出すようなことはしたくないからだ。

ウクライナ戦争を見ても分かるように、ウクライナ人が必死に戦っているからこそ、軍事同盟を結んでいないため派兵できる国はないものと思える。多くの国が兵器や支援物資をウクライナに送っているのである。同様に日本人が頑張らないと米軍が来るはずがない。だから自衛隊が単独で人民解放軍と戦うことになる。それで自衛隊が１個師団くらいの犠牲者を出した時に初めて、日本政府の求めに応じて米軍が参戦することになる。（「おわりに」：高橋洋一より）

報告事項

令和５年度偕行社総会及び全国会長会同

１０月６日（金）に偕行社総会、７日（土）に全国会長会同がグランドヒル市ヶ谷に於いて実施され加賀本が参加しました。

総会は１６：００～１８：００の間、会務報告後、陸幕長森下泰臣陸将の講話「陸上自衛隊の能力強化」がありました。講話は、安保三文書の具現化に伴う陸上自衛隊の今後の強化施策の推進について、あらゆる障害を克服して強力に推進するとの固い決意を示されました。大いに期待したいものです。

その後、１８：１５～２０：１５の間、偕行社と陸修会の合同表明会が実施され、両会理事長による合意書署名があり、令和６年４月１日を以ての合同し、「陸修偕行会」発足が決定されました。

その後、合同記念懇親会が実施され、陸幕長以下多くの現役高級幹部と偕行社・陸修会各会員、各界の来賓等が参加する盛大な催しとなりました。

全国会長会同は、翌１０月７日（土）に実施されました。

陸修偕行社については、我々OB の自助努力で盛り上げて行く共に、陸幕長他、高級幹部も現役自衛官に周知徹底を図ると明言されており、現役時代から認識が深まれば、先行きは明るいものと思料する。

将来的には現役を含めた会として発展させ、戦前の偕行社に引けを取らないステイタスを確保する必要があろう。

それには、憲法を改正し、自衛隊を新国軍にする事が大前提ではあろうが・・・

「議題１：来年度以降の各地偕行会との協力事業」

〇安全保障の調査・研究・提言、陸上自衛隊等に対する必要な協力事業等は、穴水保雄財団（偕行社等安全保障に関する活動をする団体を支援してくれる財団）からの助成金を助成費として交付する。

〇英霊の慰霊顕彰等については、偕行社の資金を

助成費として交付する。
結論として、現在本会が実施している事業は、自己資金で実施せざるを得ないと思われます。
「議題２：本部と支部の関係について」
陸修偕行社発足後は、本部と支部の関係に関する考え方が確立されるまでの間は、現行のままとし、将来的には本部と支部の関係になる方向で検討するとされました。　担当　加賀本

第１５回特攻勇士慰霊祭

１０月２９日（日）１０：３０から第１５回特攻勇士慰霊祭を大阪護国神社に於いて厳かに執り行いました。

盛装なった特攻勇士慰霊碑

当日は絶好の秋晴れとなり、青空天井、爽やかな日差しを浴びながらの祭礼となりました。
祭礼は、国防を考える会等関係団体・理事・近畿偕行会会員有志等多くの方のご出席を頂き、盛大に実施する事が出来ました。

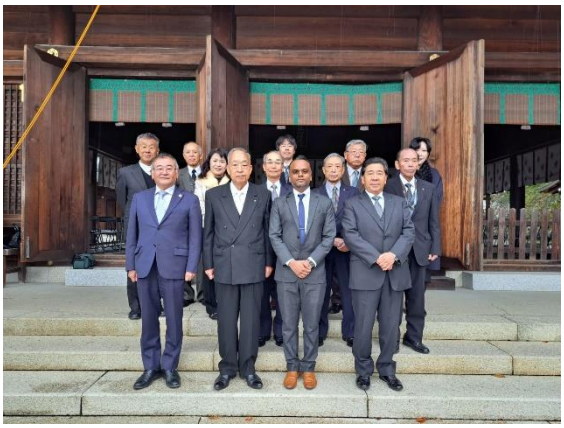
厳粛なる神事

また、中部方面音楽隊も多忙な中、慰霊演奏を実施して頂き、ご英霊を十分にお慰めできた事と思料します。参加できなかった方々の思い入れも込めて盛大な慰霊行事となり感謝申し上げます。
その後直会は新企画で、国防を考える会の全面的支援を得て、隣接の住之江公園でのバーベキューで実施しました。特攻勇士達を偲びつつ、御霊と共に参加者の心を一にする有意義なものであったと思料します。その他、会場の準備・撤収作業・受付業務に於いても「国防を考える会」の皆様に多大のご支援を頂き感謝申し上げます。
また、ご参加できなかった方々からも多くの志納金を賜り心より御礼申し上げます。
担当　加賀本・熊谷（写真提供：岸岡サトミ様）

令和５年度パール判事顕彰献花祭

１１月２６日（土）令和５年度パール判事顕彰献花祭を京都霊山護国神社に於いて実施しました。
インド側は、在大阪・神戸インド総領事代理として副領事のカムレシュ・プラサード氏（夫妻）が参加、京都府偕行会・近畿偕行会各会長及び各会会員有志等の参加を得て盛大に催行しました。
京都特有の秋晴れなれど時々時雨の中での実施となりました。
まず、１１：００から本殿に於いて大東亜戦争を共に戦った我が皇軍・インド国民軍の戦没英霊及び昭和殉難者法務死英霊に対する慰霊と感謝の誠

を捧げる「戦没英霊慰霊祭」を挙行しました。



慰霊祭後本殿前にて

事後、特攻勇士慰霊像参拝、１１：３０から顕彰碑前でパール判事に感謝を捧げると共に我が祖国日本の弥栄を祈念し、参加者全員による献花を実施しました。

献花後顕彰碑前にて

なお、直会は、会場の都合により残念ながら中止としました。

また、ご参加できなかった方々からも多くの志納金を賜り心より御礼申し上げます。

担当　加賀本・熊谷（写真提供：岸岡サトミ様）

会外行事参加報告・紹介案内

参加報告

シベリヤ満蒙戦没者慰霊祭

シベリヤ満蒙戦没者慰霊祭が、１０月１日（日）源平合戦ゆかりの古刹「須磨寺」に於いて秋晴れの下、厳かに執り行われました。

シベリヤ満蒙戦没者慰霊碑（須磨寺）

本会から熊谷事務局長、吉村伊平氏・岸岡サトミ女史の３名が参加し、いわれなき戦火・虜囚抑留の果て酷寒のシベリヤ満蒙の地で非業に倒れた「御霊よ安らかなれ」との祈りを捧げました。

担当　熊谷（写真提供：岸岡サトミ様）

中部方面隊創隊６３周年記念行事

陸上自衛隊中部方面隊の創隊６３周年記念行事が１０月８日伊丹駐屯地で実施されました。

当日は心配された雨も、行事終了までは無く、無事終了しました。当日は、駐屯地も一般開放され、観客は１万６千人を越えたとの事でした。

隊員たちの精強ぶりは変わらず、観閲行進や迫力ある訓練展示に観客は拍手喝采、大満足の態でした。部隊改編及び老朽化により退役する今年が最後の７４式戦車の勇姿に対して惜しみない大拍手が起こりました。

退役する７４式戦車最後の勇姿

また、行事の様子は動画投稿サイト「ユーチューブ」でも中継されました。
本会から、加賀本、熊谷、西川、有馬の４名が参加しました。
担当　加賀本（写真提供：陸自中方広報室）

真田山陸軍墓地秋季慰霊祭

１０月２８日（土）１０：３０から真田山陸軍墓地に於いて秋季慰霊祭が行われました。遺族や中部方面総監堀井泰蔵陸将以下自衛隊関係者等約２００人が参列し、国の平和と繁栄の礎となった戦没英霊に哀悼の祈りが捧げられました。

真田山陸軍墓地

本会から盛田理事・岸岡サトミ女史が参加しました。なお、真田山陸軍墓地は、明治４年に設けられた我が国最古かつ最大の陸軍墓地です。
担当　盛田（写真提供：岸岡サトミ様）

全国ソロモン会関西支部慰霊祭

１１月１１日（土）大阪護国神社に於いて全国ソロモン会関西支部（会長：河合正雄氏）慰霊祭が実施されました。
大東亜戦争中、ガダルカナル島初め激戦のソロモン諸島方面で戦没された英霊に対し、慰霊と感謝の誠を捧げました。当会から会長、事務局長、小山みどり理事、岸岡サトミ女史が参加しました。

参列者一同

因みに、全国ソロモン会は、ソロモン諸島方面の戦域に従軍した陸軍第１７軍隷下各部隊、海軍第８艦隊隷下の各部隊等の生存者と遺族、その他有志を中心に、昭和４０年１０月２４日（ガダルカナル島ルンガ飛行場奪回のため第２次総攻撃敢行の日）に結成された戦友会です。
現在靖国神社初め各地における慰霊祭、現地における国際交流や慰霊巡拝、遺骨調査・収容活動への協力活動を行っている、当会と志を同じくする友好団体です。
担当　加賀本（写真提供：河合正雄会長）

第２９回全国戦没學徒追悼祭

１０月２１日（木）１１時から南淡路市阿万大見山山頂「若人の広場公園」に於いて、第２９回全国戦没學徒追悼祭が催行されました。

追　悼　祭　会　場

昨今の世界情勢を思わせる曇天の空模様と寒風でしたが「若人の広場」に、陸海自衛隊高官初め、例年通りの多くの人が参加して、熱気溢れる参加者の想いを秘めて、厳かに執り行われました。全国の戦没学徒は「学徒」だけに、殆ど子孫がいませんから供養も追悼もされず忘れられてしまいそうな昨今です。
家族や故郷や國のため等、多くの思いを抱いて日本の指導者として未来を担うはずのエリート学生達がペンを銃に持ち替え戦い、戦死されました。
「永遠に忘れじ！！」の想いを国民のより多くが持ち、今後もご英霊に対する感謝と慰霊を忘れてはならないとの念を深くした次第です。

神楽奉奏「みたま慰めの舞」
担当　加賀本

紹介案内

今期はありません。

和歌山偕行会便り

１０月１７日(火)　「私は一体何者？　そして、ゼレンスキーの正体は？？」　プーチンに踏み込まれて、米国から亡命を勧められたゼレンスキーが「私に必要なのは亡命の為の乗り物ではなく、ロシアと戦う武器だ」と大向こうを唸らせる名言を吐いたのを知り、凄い大統領だと思ったものです。その後の彼の動向を追跡してきましたが、どうやら私の当初の印象は間違っていた様です。
ウクライナは独立以来、親ロシア政権にしろ親ＮＡＴＯ(米国)にしろ腐敗塗れであるらしく、ゼレンスキーも例外ではなさそうです。
渡辺惣樹氏からの情報によれば、ゼレンスキーの義母は世界有数のリゾート地に豪邸を購入したり、夫人が米国の有名ブランド店で日本円にして１億円を優に超える宝石３点を購入したとのことです。
真偽の程は定かではありませんが、歴史的経験則からはありえそうなことです。
ネタニヤフも私腹を肥やす宰相でなく、真の愛国者であって欲しいと願っています。
（前和歌山偕行会会長　奥野耕三）

編集後記

ご英霊の慰霊顕彰行事を催行し、また参加して常に思う事ですが、近しいご遺族・戦友の方々がお亡くなりになり、参列者が減少する中、何とか全国民特に若い人たちが「皆遺族」と云う意識を持ってもらえる施策はないものかと思案するこの頃です。
いよいよ冬を迎えます。暖冬の予報ですが、本会はご高齢の方が多く、皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。
本年のご協力を感謝申し上げますと共に、御家族揃って素晴らしい新年をお迎え下さい。
来年もご協力の程よろしくお願いたします。
（加賀本）

近　畿　偕　行　会
会　長　加賀本 昭雄

編集責任者　熊谷　勉
〒651-1513 神戸市鹿の子台北町 3-1-4-201
Tel & Fax:078-952-3063

編集委員　加賀本　昭雄
〒664-0012 伊丹市緑ヶ丘 2-97
Tel:072-785-8954